

新県立博物館の活動と運営 Vol.2
～ともに考え、活動し、成長する博物館に向けて～

平成 23 年 3 月

三重県生活・文化部
新博物館整備推進室

県では、昭和28年に開館し、長く三重の自然と歴史・文化の資産の保全、継承、人材育成など地域の拠点として活動してきた三重県立博物館の老朽化に伴い、これに替わる新たな「文化と知的探求の拠点」として新しい県立博物館の整備について検討を行ってきました。

新県立博物館は、「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざしています。博物館の主役は、県民・利用者の皆さんです。この考え方を、博物館をつくる段階から実践していくため、現県立博物館で取り組んできた活動を発展的に新県立博物館に向けた活動に集約しつつ、新たな検討や試行を加えて、県民・利用者の皆さんとともに取り組んでいきたいと考えています。

そこで、平成21年度から開館までの約5年間に、新県立博物館の開館に向けたさまざまな検討や取組を県民・利用者の皆さんに報告し、一緒に考えていただくための資料として活用するために、毎年「新県立博物館の活動と運営」をまとめていくこととしました。平成21年度のVol.1（第1巻）から平成25年度のVol.5（第5巻）まで、記録として共有できるようにまとめていきたいと考えています。また、「新県立博物館の活動と運営」を開館後のみんなでつくる博物館の基本的なしくみとして発展させるための検討も進めます。

本年度 Vol.2 を作成するにあたり、第1章の各取組の整理の仕方や第2章で扱う内容、第3章の構成など、よりわかりやすく博物館づくりの進捗内容について伝え、議論につなげていくにはどうすればよいか、検討しましたが、まだ多くの課題が残っていると感じています。

ぜひ、一人でも多くの方がご覧になり、内容についてご意見・ご感想をお寄せいただくとともに、新県立博物館をつくっていく過程に参加・参画していただくことにつながれば幸いです。

平成23年3月

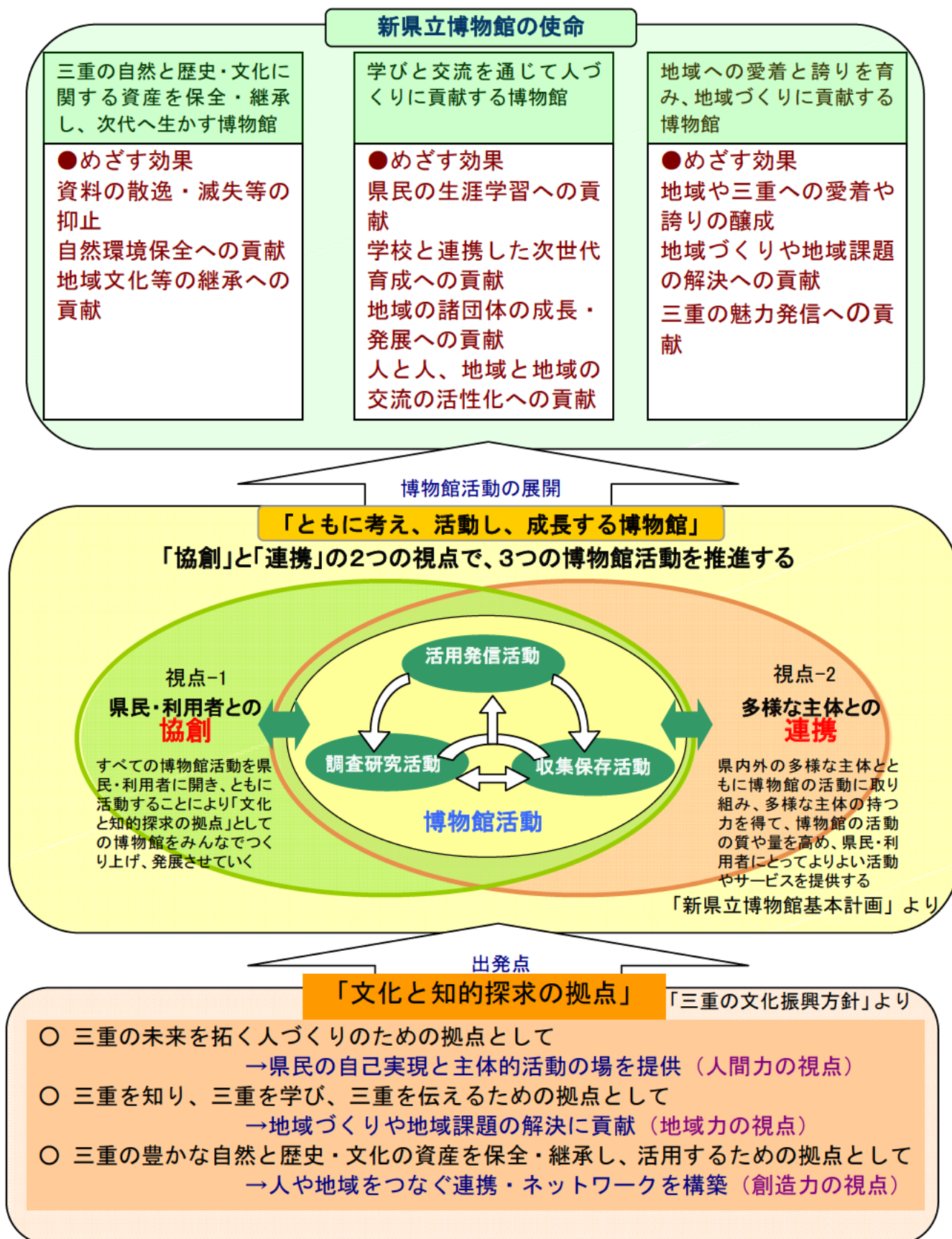
三重県生活・文化部 新博物館整備推進室

目 次

ページ

序章	新県立博物館の理念と使命……………	1
第1章	2010（平成22）年度の取組……………	2
	■事業実施方針の基本的な考え方	
	1 事業の目標	
	2 取組方針	
	3 県民・利用者の皆さんとともに進める協創による取組 ～重点的取組テーマ～	
	■取組概要	
	1 各取組の位置づけ	
	2 実施状況	
	■ 県民の皆さんへの説明と意見集約の取組	
第2章	2010（平成22）年度の検討内容から……………	34
	■「新県立博物館の活動と運営の方針（仮称）」の検討	
	1 新県立博物館の活動と運営の方針（仮称）のとりまとめ について	
	2 平成22年度検討案	
	■みんなでつくる博物館会議・こども会議	
	1 みんなでつくる博物館会議2010（全体会）	
	2 こども会議	
	3 みんなでつくる博物館会議（分科会）	
	（1）展示検討ワークショップ	
	（2）ユニバーサルデザイン（UD）	
	（3）三重県立博物館サポートスタッフ交流会	
第3章	2011（平成23）年度に向けて……………	55
	1 2010（平成22）年度の成果と課題	
	2 2011（平成23）年度の位置づけ	
	3 2011（平成23）年度の取組のポイント	

序章 新県立博物館の理念と使命



第1章 2010（平成22）年度の取組

2010（平成22）年度の取組については、「新県立博物館基本計画（平成20年12月）（以下「基本計画」という。）に基づき作成した「新県立博物館 事業実施方針」（平成21年3月）（以下「事業実施方針」という。）をもとに、展開してきました。

■ 事業実施方針の基本的な考え方（事業実施方針より）

1 事業の目標 「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくり

2 取組方針

(1) 開館前から協創・連携による活動を展開する

開館前から、県民・利用者との「協創」の視点と多様な主体との「連携」の視点に基づく活動を展開します。

(2) 既存の活動を拡充・発展させる方向で展開する

現博物館が既に実施している活動を拡充・発展させ、新県立博物館の活動につなげます。

(3) 重点的取組テーマを設定して活動を展開する

「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくりのために、重点的取組テーマとして下記の4項目を設定し、開館に向けた活動の中で積極的に展開します。

(4) ソフトの成果を施設づくりに生かす

事業実施方針に基づく検討・取組を施設づくり（設計・施工）に生かします。

3 県民・利用者の皆さんとともに進める協創による取組

～重点的取組テーマ～

◇取組テーマ1 参画のしくみづくり

県民・利用者の皆さんが、一人ひとりの状況に応じて博物館の活動や運営に関わることができるよう、多様な参画の機会を設けます。

◇取組テーマ2 連携が進む環境づくり

県内外の博物館、大学等高等教育機関、学校など多様な主体との連携が進むために必要なしくみの整備を進めます。

◇取組テーマ3 評価のしくみづくり

博物館の活動や運営の成果を県民・利用者をはじめ、博物館に関わる人がみんなで振り返り、確認することにより、次に生かし、活動や運営をより充実したものに高めていけるようなしくみを検討し、設けます。

◇取組テーマ4 魅力的な博物館づくり

より多くの人々が興味を持って、来館し、リピーターとなるような魅力的な博物館とするための取組を進めます。

■ 取組概要

2010(平成22)年度に実施した取組を、事業実施方針の重点的取組テーマ別に位置づけ、実施状況について報告します。

1 各取組の位置づけ

<取組テーマ1> 参画のしくみづくり

- 段階に応じた参加、参画のきっかけ、機会づくり
- ①博物館活動（調査研究、収集保存、活用発信）
- ②運営（博物館運営機関、評価に参画、ボランティアスタッフ、友の会等の支援組織）→主に取組テーマ4で実施

平成22年度の取組

- ・みんなでつくる博物館会議2010 →(1)
- ・新博ティーンズプロジェクト →(2)
- ・博物館きわめるプロジェクト →(3)
- ・こども会議 →(4)
- ・三重県立博物館サポートスタッフ活動 →(5)
- ・御幣川ソウ足跡化石調査 →(6)
- ・「新県立博物館の活動と運営 Vol.2」のとりまとめ →(7)

<取組テーマ2> 連携が進む環境づくり

- 対象別の方針
- ①各主体との対話
- ②連携事業の試行

平成22年度の取組

- ・県内博物館との連携 →(8)
- ・三重大学との連携 →(9)
- ・まちかど博物館との連携 →(10)
- ・地域の団体との連携 →(11)
- ・学校との連携 →(12)
- ・「文化と知的探求の拠点」
との連携 →(13)
- ・御幣川ソウ足跡化石調査 →(6)

<取組テーマ4> 魅力的な博物館づくり

- ソフト面・ハード面の
施設づくり・運営
- 広報・発信

平成22年度の取組

- ・移動展示 →(14)
- ・建築設計・工事の推進 →(15)
- ・展示設計の検討 →(16)
- ・県民等への説明と意見集約 →(17)
- ・誰もが利用しやすく、魅力的な博物館づくり →(18)
- ・みんなでつくる博物館会議2010 →(1)
- ・新博ティーンズプロジェクト →(2)
- ・こども会議 →(4)
- ・「新県立博物館の活動と運営 Vol.2」のとりまとめ →(7)

<取組テーマ3> 評価のしくみづくり

- 評価のしくみづくり
- ①運営面での評価
- ②展示等事業評価

平成22年度の取組

- ・移動展示 →(14)
- ・運営方針等の検討、評価のしくみ調査・検討 →(19)
- ・みんなでつくる博物館会議2010 →(1)
- ・「新県立博物館の活動と運営 Vol.2」のとりまとめ →(7)

2 実施状況

(1-1) みんなでつくる博物館会議2010（全体会）

昨年度に引き続き、2回目となる「みんなでつくる博物館会議2010」は、新県立博物館の建築工事・展示設計の進捗状況や「新県立博物館の活動と運営 Vol.2」などを説明したうえで、これからめざす方向を共有し、今後に向けてのさまざまな意見や提案を出し合う場としました。今回は特に、県民の皆さんの博物館の活用方法について、理解を深めていただき、「参加・参画」について具体的な意見をいただくことを目的に開催しました。

また、さまざまな機会を分科会と位置づけ、具体のテーマを設けて意見交換を行いました。

○全体会

日時：平成23年2月13日（日） 13:30～16:00

場所：三重県総合文化センター 大・中研修室

参加者：95名

プログラム：

《大研修室》「みんなでつくる博物館会議2010」

○あいさつ・趣旨説明・新県立博物館整備進捗状況

○第1部 講演会「博物館を活かして使う達人に聞く！」

1) 石川佳奈子さん（三重県立博物館サポートスタッフ）

2) 川本百合子さん（斎宮ガイドボランティア）

3) 前田雅子さん（滋賀県立琵琶湖博物館フィールドレポーター）

○パネルを見ながら交流会！

○第2部 意見交換会「新博物館で、こうしよ、ああしよ！」

コーディネーター：山田康彦さん（三重大学教育学部教授）

コメンテーター：布谷知夫さん（三重県生活・文化部顧問）

○ エンディング

《中研修室》パネル展示

「もう始まっています！ みんなでつくる新博物館の活動」

- ・ 平成22年度に行ってきた新博物館の活動・取組紹介と新博物館の整備状況（文化庁支援事業、三重大学との連携事業、地域との連携事業など）

- ・ 三重県立博物館サポートスタッフの活動紹介

※開催経過の詳細については、49ページ参照

(1-2) みんなでつくる博物館会議2010(分科会)

○分科会

① 展示検討ワークショップ

(第1回) 日時：平成22年8月8日(日)

会場：松阪市文化財センター(はにわ館)

参加者：8名

(第2回) 日時：平成23年1月30日(日)

会場：ふるさと多度文学館

参加者：28名 展示解説参加者：64名

② ユニバーサルデザイン(UD)についての意見交換会

1) 日時：平成22年9月10日(金)

会場：三重県身体障害者総合福祉センター

参加団体：三重県障害者社会参加推進協議会(14団体)

2) 日時：平成22年9月14日(火)

会場：津庁舎

参加団体：ユニバーサルデザインアドバイザー団体(7団体)

③ 博物館の活用と新博物館(三重県立博物館サポートスタッフ交流会)

日時：平成22年11月20日(土)

会場：三重県総合文化センター 大研修室

参加者：サポートスタッフ33名、その他2名

※分科会の開催結果の詳細については、51ページ参照

(2) 新博ティーンズプロジェクト（文化庁支援事業）

「新博ティーンズプロジェクト」は、昨年度から行っている子どもたちが主役の博物館づくりのための取組です。今回は、家族や友だち、学校のサークルなどのグループで「おとなになっても残しておきたい地域の宝・魅力さがし」を行いました。これらの活動は、資料収集、調査研究、活用発信という日ごろ学芸員たちが博物館で行っている活動そのものです。これらの活動を通して、博物館の活動に興味や関心を持ったり、自分たちの住む地域について知ってもらうきっかけとなるよう企画したものです。

県内各地から、9グループ総勢 66 人が参加しました。

平成 22 年

○7 月 11 日（日） 調査方法についての説明会（県立博物館）

○7 月後半～10 月上旬 学芸員と一緒に、各地で調査を実施

○10 月 17 日（日） 調査成果発表・交流会
（三重県総合文化センター大研修室）
参加者 110 名

（各グループが調査したこと）

- ・ アグリ公園の古い井戸のナゾについて（度会郡玉城町）
- ・ 海の調査～松名瀬海岸～（松阪市）
- ・ 津に落とされた焼夷弾（津市）
- ・ 津にあった昔の能楽堂を中心に「三重県能楽発祥」説の真偽を調べる（津市ほか）
- ・ 東海道を歩く～鳴海から桑名まで～（名古屋市～桑名市）
- ・ 学校を建てるときに発掘された遺跡について（津市）
- ・ 玄関のしめなわなどの調査（松阪市）
- ・ 松阪を歩いて昔のことを聞こう（松阪市）
- ・ 日本家屋を調べよう！～in 天満荘～（尾鷲市）

将来的には、これらの成果を新県立博物館の企画展示等で紹介していくなどにより、子どもたちが仲間と一緒に楽しみながら活用でき、より身近な博物館となるよう引き続き計画していきます。



調査についての説明会



調査成果発表・交流会

(3) 博物館きわめるプロジェクト（文化庁支援事業）

平成21年度の博物館きわめるプロジェクトの成果と課題を踏まえて、今年度も引き続き、メインテーマ「博物館ってどんなところ？」のもと、「展示って何？」を年度テーマにして、子どもたちが博物館とはどのようなところかを知り、親しみを持つきっかけとなる2種類のワークショップ（11/7、12/5）を試行しました。

また、博物館サポートスタッフとの協働により取り組むプログラムとして、コーディネーターによる事前研修会（10/23）、ワークショップへの参画と講師との座談会、さらにそれらから学んだ成果を反映させてサポートスタッフ企画講座（12/18）を実施しました。



事前研修会

事前研修会

日時：平成22年10月23日（土）

場所：三重県立博物館

講師：染川香澄さん(ハンス・オン プランニング代表)

参加者：23名



ふでばこてんらん会

ワークショップ「ふでばこてんらん会」

日時：平成22年11月7日（日）

場所：三重県立博物館

講師：佐藤優香さん（国立歴史民俗博物館助教）

参加者：19名



ワクワク博物館のつくりかた

ワークショップ「ワクワク博物館のつくりかた」

日時：平成22年12月5日（日）

場所：三重県立博物館・津市津偕楽公園

講師：塩瀬隆之さん(京都大学総合博物館准教授)

参加者：31名



正月飾りづくり

サポートスタッフ企画「正月飾りづくり」

日時：平成22年12月18日（土）

場所：三重県立博物館

講師：渡部勇さん（サポートスタッフ）

門口実代（新博物館整備推進室）

参加者：16名

(4) こども会議（文化庁支援事業）

新県立博物館が、子どもたちが何度でも行きたくなるような博物館になるよう、昨年度に引き続き文化庁の支援を受け、「みんなでつくる博物館 こども会議」を開催しました。

こども会議では、今年度「新博ティーンズプロジェクト」や「博物館きわめるプロジェクト」などで実施した地域の宝ものをさがす活動や、展示について楽しく学ぶ活動などに参加した子どもたちが、感じたことや考えたことを発表しました。そして、大人も交え、当日お越しいただいた方々と一緒に、新県立博物館でやってみたいこと、あったらいいなと思うことを話し合いました。

当日は小学校１年生から中学校３年生までの子ども２９名、大人６３名の参加があり、知事も交えて活気のある意見交換を行いました。

日時：平成２２年１１月２８日（日）１３：３０～１６：３０

場所：三重県総合文化センター セミナー室Ｃ

※詳細については、５０ページ参照



子どもたちによるグループ活動の発表



新博物館に思いを寄せる座談会



ポスター発表（土器について説明）



ポスター発表（知事の質問に答える）

(5) 三重県立博物館サポートスタッフ活動

現県立博物館では、平成18年度からサポートスタッフの募集を始め、新県立博物館へ向けた先行的取組として活動を行なっています。

毎年数十名ずつ仲間が増えており、現在は小学生から80歳代の方まで約230名の皆さんがサポートスタッフ活動に参加しています。活動では自ら学ぶ楽しさや知的好奇心を育みながら、世代や興味関心をこえた交流や、資料を通じた地域の再発見など、協創活動の場づくりを進めています。

主な活動内容としては、三重の自然や歴史・文化を扱う博物館の活動に関する「研修受講」、県内各地で開催する移動展示や博物館教室・フィールドワークなどの博物館事業への「スタッフ協力」、各自の興味関心に沿った分野別の「グループ活動」(サポスタ情報局・おもしろ博物館づくり・化石鉱物・生きもの・染色・民俗・歴史の7グループ)などです。これらを通し、皆さんと「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざしています。

本年度は、自主運営による講座や、一般向けの体験講座の実施など、新県立博物館での活動につなげられるよう活動しています。2月13日に開催した「みんなでつくる博物館会議2010」では、パネル展示などにより広く活動を知っていただく機会を設けました。



研修受講(博物館資料の紹介)



スタッフ協力(館外での子ども向け行事)



グループ活動(アサギマダラの渡り調査)



みんなでつくる博物館会議の準備

(6) 御幣川ゾウ足跡化石調査（みんなで進める調査事業）

現県立博物館では、昨年度に引き続き、ミエゾウをはじめとするゾウ化石研究の基礎データを得るために、平成22年8月26日～29日に、鈴鹿川水系の支流である御幣川（おんべがわ）流域（鈴鹿市伊船町）において、ゾウなどの足跡化石の調査を行いました。

調査の実施にあたっては、新県立博物館がめざす協創と連携による先駆的な取組として、県内外の学術団体（滋賀県足跡化石研究会、名古屋地学会ほか）や大学等の研究者、博物館サポートスタッフ、鈴鹿市、地元自治会など、多様な主体の協力を得ました。

また、10月3日には、「御幣川ゾウ足跡化石調査報告会」を地元伊船町の鈴峰公民館で、鈴鹿市の協力により開催しました。

現地調査を行った御幣川流域の地層は、ちょうどミエゾウからアケボノゾウへと進化していったと考えられる時代の地層です。このため、調査で得られた成果を詳しく検討するとともに、さらに広域的な調査を行うことは、まだ十分に解明されていない、ミエゾウからアケボノゾウへの進化過程を明らかにし、また、ゾウがいた頃の三重の古環境を考える上で大変意義があります。引き続き調査を進め、得られた資料や情報は、新県立博物館で収蔵・展示していく予定です。

※ 新県立博物館建設地での地層・化石調査の実施

平成22年12月に新県立博物館の用地を取得後、造成斜面に露出していた東海層群亀山層の記録を残し、展示等に活用できないか検討するため、調査を行いました。調査の過程で、亀山層の一部から脊椎動物の骨片、シカの下顎骨、ワニの歯、タニシなどの貝類、昆虫、植物、偶蹄類（ぐうていりい）の足跡など多様な化石を発見したことから、1月9日～2月2日に地質学・古生物学分野の専門家とともに地層や化石分布の状況把握を行いました。その上で、調査委員会を設置し、詳細な調査に入りました。現地調査としては、工事関係者と十分調整の上、3月から5月までの期間に計画的に進めることとしています。

平成23年3月13日 第1回調査委員会

// 3月13日～21日 第一次調査

// 5月1日～5日 第二次調査（予定）

地層の状況や発掘した化石群を詳細に研究することでミエゾウが生息した時代の生態系や環境などについて知る手がかりを得られ、この研究成果を新博物館の展示や今後の調査研究などに生かしていきます。

(7)「新県立博物館の活動と運営 Vol. 2」のとりまとめ

新県立博物館に向けた検討や取組の進捗状況について報告し、県民の皆さんと共有し、意見交換するためのツールとして、「新県立博物館の活動と運営 Vol. 2」をとりまとめました。

平成22年度の取組について、実施結果だけでなく、検討した内容についてもとりまとめ、意見を反映できるよう12月に中間報告を作成し、「みんなでつくる博物館会議2010」(2月13日)などで、意見交換を行いました。これらをもとに、3月末までの取組や検討状況をとりまとめました。

(8) 県内博物館との連携

(三重県博物館協会 連携ワーキング)

県内博物館 51 館が参加する「三重県博物館協会」に、今後の連携に向けた検討のためのワーキングを設けました。

今後、これまで三重県博物館協会で行ってきたことや、平成 20 年度に実施したアンケート調査を参考にしながら、行事や展示などの共同開催、合同広報活動、資料情報などの共有化、合同研修会など、可能なものから具体的に検討を進めていきます。そのための取組として、今年度については、下記の研究フォーラムを開催しました。最終的に、連携が利用者にとってメリットになり、県内博物館にとっても基盤強化につながるよう、持続的に、県内博物館とともに取組を進めていくことをめざしています。

(研究フォーラム「子どもが主役となる博物館づくりを考える」)

三重県博物館協会との共催により、子どもと博物館をつなぐ取組をされている講師を招き、子どもにとって博物館はどのような場であるべきか、またどのような役割を果たすべきかについて、博物館の関係者や博物館活動に関心のある皆さんとともに考える研究フォーラムを開催しました。

- ・実施日：平成 23 年 1 月 15 日（土）
- ・場 所：三重県総合文化センター 大研修室
- ・参加者：82 名

○講演 塩瀬隆之さん「毎日ワクワクする博物館をつくろう！～教えない博物館をめざして」

○報告 1 鈴木有紀さん「博物館教育は『展示』が大事～来館者が中心となる教育活動の試み」

○報告 2 井島真知さん「ダイナソーキッズスクール～子育て支援 NPO との共同プログラム～」

○報告 3 嵯峨創平さん「ミュージアムシアターの活動と子どもの参画」

○報告 4 平賀大蔵さん「海を子どもと体験する」

○パネル発表（発表者と参加者との対話の時間）

○討論

○講評 染川香澄さん

(9) 三重大大学との連携

平成21年3月、三重大大学との間で新県立博物館に関する連携協定を締結し、相互に協力していくこととしました。その一環として、昨年度は今後の連携のあり方などについて、定期的な協議を行うとともに、3回シリーズのシンポジウムを共同開催しました。

本年度も引き続き、定期的な協議とシンポジウムを共同開催するとともに、新たに共同研究にも着手しました。

(シンポジウム)

日時：12月4日(土)

場所：アスト津 アストホール

テーマ：「博物館・大学・県民がつくる学びの輪」

概要：基調講演：大野照文さん(京都大学総合博物館館長)

ほかにパネルディスカッション、パネル展示(新県立博物館紹介)

参加者：約120名

(共同研究)

新県立博物館の展示計画にあわせて、次の3つのテーマを設定して研究を行っています。これらの成果は、基本展示などの展示内容に生かしていく計画です。

- ・「御師屋敷の復元研究」(人文系)
- ・「伊勢湾・熊野灘の展示設計に関する調査・研究」(自然系)
- ・「祓川流域研究～祓川ハンドブックの作成と展示設計への展開～」
(総合系)

(その他)

現県立博物館では、学芸員資格取得を目的とした博物館実習やインターンシップの学生を受け入れました。さらに教育学部・工学部と連携した取組として、11月27日、28日に開催の「青少年のための科学の祭典」に「昆虫切り紙体験」を出展しました。

(10) まちかど博物館との連携

新県立博物館では、県内に500館余りある「まちかど博物館」との連携を進めていくこととしています。開館までは、さまざまな試行的な取組を通して、連携関係を築いていきたいと考えています。

(館長交流会での意見交換)

平成22年12月5日(日)開催のまちかど館長交流会で、新県立博物館の概要紹介の後、出席者と意見交換を行いました。

まちかど博物館の館長をはじめ、関係者から次のような意見が出されました。

- ・新博物館が、まちかど博物館を連携しようとするのであれば、計画や方針等で明確に位置づけるべきである。
- ・新博物館は、まちかど博物館と一緒にやることで、いろいろなことができると思う。
- ・まちかど博物館の資料の保存などについての支援をしてほしい。
- ・まちかど博物館の人は、地域の情報に詳しい人も多いので、もっと連携してはどうか。
- ・時代とともに移り変わっている地域のまつりの様子など、時代とともに失われている文化や伝統などを展示として取り扱ってほしい。

(移動展示での連携)

平成23年1月22日から桑名市で開催した移動展示「くらしの道具 いま・むかし」において、開催地域のまちかど博物館と連携した取組を実施しました。

移動展示では、開催地域の方々により親しみをもって展示を見学いただけるよう、地域にまつわる資料を展示しました。今回は、お菓子づくりの道具を桑名まちかど博物館といなべまちかど博物館に所属する老舗の和菓子店から出展いただきました。

(1 1) 地域の団体との連携

地域の団体との連携事業に取り組む中で、資料の収集保全、調査研究等の博物館活動をともに進めるための人的なネットワークづくりを行うこととしています。

(しぜん文化祭みえ実行委員会への参画)

平成 22 年 3 月には、県内の自然系の団体が集まり、その活動や地域の自然を紹介する「しぜん文化祭」の開催に協力するとともに、県が主催して新県立博物館に関するシンポジウムを同時開催しました。本年度も引き続き、開催が予定されており、企画段階から協力・参画しています。

平成 22 年度 開催場所：三重県立熊野古道センター（尾鷲市）

開催期間：平成 23 年 3 月 19～20 日(中止)

※3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」の状況から、開催を中止しました。

(参考)

平成 21 年度 開催場所：菰野地区コミュニティセンター（菰野町）

開催期間：平成 22 年 3 月 20～21 日

参加団体：35 団体



しぜん文化祭 in みえ（平成 21 年度）

(12) 学校との連携

(次世代の文化体験活動推進事業)

県生涯学習センターが窓口となって実施している次世代の文化体験活動として、現県立博物館所蔵の資料や技術などを活用して学校での授業や観察会などを行いました。

(学校での出前授業)

現県立博物館では、学校からの依頼に応じて、水生生物調査や昆虫切り紙と昆虫観察、化石レプリカづくり、昔の道具体験などを行っています。本年度は、小学校9件について、実施しました。

(移動展示における調べ学習の成果発表)

移動展示「くらしの道具 いま・むかし」では、小学3年生が授業で「昔の道具しらべ」を行うことから、展示会場のふるさと多度文学館周辺の小学校5校と連携し、展示活動を行いました。これは、授業で取り組んだ調べ学習の成果を移動展示に組み入れるもので、各学校には、博物館の収蔵資料の貸し出しも行いました。授業では、子どもたちが道具の体験や地域の古老から昔の道具に関する聞き取りを行うなど、幅広い学習活動を行っていただきました。その成果を調査した資料とともに移動展示で発表しました。

子どもたちが調べまとめた成果は、こどもたちの目から見たモノの捉え方や考え方について新しい気づきをもたらしてくれました。また今回の取組は、「教育」のプロである学校(教員)と「資料」のプロである博物館(学芸員)の長所を活かした連携のあり方を考える事例にもなりました。

(13)「文化と知的探求の拠点」との連携

「三重の文化振興方針（平成 20 年 3 月）」では、県内の「文化と知的探求の拠点」（県立・市町立・私立の文化施設）、と「身近な拠点」（市町の公民館、児童館等の施設など）が、それぞれの特徴を生かし、役割を果たしながら連携して、三重県全体として文化振興を図っていくことを重点方針としています。

現県立博物館においても、多様な機能をもった生涯学習センターや文化会館、図書館、他の博物館、公民館などと連携することで、より充実した博物館活動の展開と新県立博物館への期待感の醸成につなげてきました。

なお、県の文化振興拠点の各施設とともに、新県立博物館整備をきっかけとした「みえの文化交流ゾーン」のための取組について検討を行っています。

（県総合文化センターとの連携）

三重県総合文化センターが毎年実施する子ども対象のM祭が、本年度も 8 月 1 日に開催され、県立博物館では子ども向けの体験事業として「昆虫切り紙でうちわをつくろう」を実施し、737 人の参加がありました。また、新県立博物館の紹介コーナーを設置して広報を行いました。

（公民館や児童館などとの連携）

子どもから大人までの幅広い年齢層を対象とする生涯学習機関に対して、昆虫講座・観察会や昆虫切り紙教室や化石レプリカづくりなどの協力を行っています。本年度は、みえこどもの城、公民館 2 か所、児童館や地域団体等 4 か所に出向いて実施しました。

（次世代の文化体験活動推進事業）

県生涯学習センターが窓口となり、県の「文化と知的探求の拠点」が連携して、未来の文化を担う子どもたちに、ホンモノの文化・芸術と「出会う」機会を提供するこの事業へは、現県立博物館所蔵の資料や技術などを活用して学校での授業や観察会などを行うため、職員を派遣しました。

※平成 22 年度の実績

6 月 27 日 三重大学附属小学校 昆虫のお話・昆虫切り紙
219 名参加

10 月 26 日 西が丘小学校 化石レプリカづくり
246 名参加

(14-1) 移動展示(展示内容の構築と多様な機関との連携)

現県立博物館が平成18年度から県内各地で開催してきた移動展示では、所蔵資料を広く県民に公開するとともに、本年度は、特に新県立博物館の基本展示室の先行的な展示活動や新県立博物館が推進する多様な機関との連携を試行しています。

また、新県立博物館のPRコーナーを設置して、その普及を図るとともに、松阪会場では、UDなどに関するアンケートを行いました。桑名会場では、平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「新博ティーンズプロジェクト」の成果も公表しました。

このような試行的かつ多様な取組により、新県立博物館がめざす「ともに活動し、成長する博物館」の普及を図り、その実現につなげます。

(松阪会場)

- 期間 平成22年7月17日～8月22日
- 場所 松阪市文化財センター
- テーマ 「水の恵みとゆくえ～くらしと自然の関わりから考えてみよう!～」
- 入場者数 1,439名

※関連行事

- ・フィールドワーク「はらい川たんけん隊」(平成22年7月25日)
- ・淡水魚保全シンポジウム三重県明和町大会「水辺へのやさしい関わり方を求めて」(平成22年8月5日)
- ・博物館教室「生きものを知ろう!不思議いっぱい」(平成22年8月8日)
- ・「みんなでつくる博物館会議」分科会(平成22年8月8日)
～展示検討ワークショップ(第1回)～
→新県立博物館の基本展示の平野のくらしについての試行的な展示内容をめざしました。



松阪会場



関連行事(はらい川たんけん隊)

(14-2) 移動展示(展示内容の構築と多様な機関との連携)

(桑名会場)

○期間 平成23年1月22日～2月20日

○場所 ふるさと多度文学館（桑名市）

○テーマ 「くらしの道具 いま・むかし」

○入場者数 1,783名

※ 関連行事

- ・ 記念講演会（平成23年2月6日） 32名参加

「世代をつなぐくらしの道具」

市橋芳則さん（北名古屋市歴史民俗資料館 学芸員）

→地元の小学校5校との連携により、小学3年生の調べ学習の成果を展示で紹介しました。また、桑名まちかど博物館といなべまちかど博物館からお菓子づくりの道具を出展いただきました。

- ・ 展示解説会（平成23年1月30日）実施

※展示解説の後、「展示検討ワークショップ(第2回)」を実施

（展示解説の詳細は、52ページ参照）



桑名会場



関連行事（記念講演会）

(15) 建築設計・工事の推進

(建築設計について)

建築設計については、平成21年6月の概略設計の公表以来、県民の皆さんや県議会の意見をお聴きしながら設計を進め、平成22年5月20日に完了しました。

(造成工事について)

平成22年6月3日に三重県土地開発公社と施工者が契約し、敷地の造成工事が始まりました。造成工事は、敷地高さを整備するための土の掘削や、地下調整池の設置などを行い、12月15日に完了しました。

(建築工事について)

造成工事終了にひきつづき、1月28日に起工式を行い、建築工事を開始しました。建築工事、電気工事、設備工事など4者と契約を結び、工期は平成25年度当初までとなっています。さらに今後、別途外構工事なども発注する予定です。

建築工事を進めるにあたり、周辺住民への影響や、安全に配慮しながら工事を進めています。また、施工段階で詳細な使い勝手などについて、ユニバーサルデザインの意見交換なども行っています。



平成23年2月末の建設地の様子

(模型によるPR)

昨年度作成した500分の1の模型に代わって、建築設計の完了時に300分の1の模型(約110センチ×約120センチ)や完成予想CGを作成し、平成22年6月から、移動展示(松阪、桑名)やM祭など県内各地でPRを行いました。



建築模型(300分の1)



外観イメージ

(16) 展示設計の検討

展示設計については、建築設計とともに、平成 21 年 6 月の概略設計の公表以来、県民の皆さんや県議会の意見をお聴きしながら設計を進め、平成 22 年 10 月に完了しました。

この展示設計は、展示室のみならず、県民・利用者の皆さんに利用いただく交流創造エリアやミュージアムフィールドなど幅広い空間を対象としたことが特色です。

毎週木曜日に定例会を開催するなど、学識経験者を加え、設計者と学芸員・建築技師等県職員による検討を行いました。

※ 定例検討会議のほかに、総合調整会議、テーマ別分科会、監修員への意見聴取などを実施

この検討を通じて、基本計画を具体化するよう展示設計を進めました。

(県民の皆さんと一緒に、ユニバーサルデザインの視点から行った検討)

- ① ユニバーサルデザインの観点で広くご意見を伺うために、特設パネル及び模型を作成し、M祭や移動展示において見やすい展示物の高さや文字の大きさ、色などについて、アンケートを実施しました。
- ② 障がい者団体やユニバーサルデザイン関係団体への説明と意見交換を 9 月 10 日と 14 日に実施し、できるだけ多くの方々に展示を楽しんでいただくための意見をお聞きしました。



展示設計の検討風景



ユニバーサルデザインの視点での検討

(17-1) 県民等への説明と意見集約（広報活動）

県民の皆さん、利用者の皆さんに、新県立博物館について知っていただき、「みんなでつくる博物館」の機運を醸成するため、以下の取組を実施しました。

4月	・建設用地への看板設置
7月	・津駅構内への看板設置 ・県政だより特集記事掲載 ・「新博ティーンズプロジェクト」チラシでのPR ・移動展示（松阪市）チラシでのPR ・「第5回淡水魚保全シンポジウム 三重県明和町大会」チラシでのPR
8月	・県政だより表紙でのPR
9月	・県立博物館に懸垂幕を設置 ・新県立博物館PRチラシ作成 ・「博物館さわめるプロジェクト」チラシでのPR
10月	・県庁大駐車場前に横断幕を設置
11月	・「三重県・三重大学連携新博物館シンポジウム」チラシでのPR ・みんなでつくる博物館「こども会議」チラシでのPR ・市場公募債募集新聞広告（5紙）及びチラシでのPR
12月	・博物館ニュース第5号発行 ・「みんなでつくる博物館会議2010」チラシでのPR ・「博物館さわめるプロジェクト」チラシでのPR
1月	・県政だより1月号に特集記事掲載 ・告知ポスター作製、PR（県内イオン各店で掲示） ・みんなでつくる博物館会議2010新聞広告（5紙）
その他	・市町広報でのPR（9市町）※ケーブルTV番組含む。



県立博物館への懸垂幕



PRチラシ

(17-2) 県民等への説明と意見集約（アンケート調査等）

3月末までで、のべ91回（のべ約27,900人）のさまざまなイベントや会議などの機会を活用して、新博物館についての説明と意見交換を行いました。説明等の時間がとれない場合は、パンフレット等を配布し、アンケートにより意見等を集約しました。7月以降は、県内の文化施設やショッピングセンター、観光施設などでのPRキャラバンも実施しました。

（アンケートについて）

※詳細は、26ページ参照

イベントや会議などでは、さまざまな目的で集まった人一人ひとりに意見をお聞きすることができないため、可能な限りアンケートの記入をお願いしました。

この結果、のべ12,905人（うちPRキャラバン分11,981人、その他イベント分924人）から回答を得ることができました。このアンケートは、県民の皆さんに新博物館について知っていただき、できるだけ多くの意見を聞くために実施しました。このため、自由記述の部分も重視しました。また、集計にあたっては、地域の特徴が見られたことから、地域別に集計・結果分析を行いました。

結果的に、地域別に集計すると、津地域以外の認知度向上が課題であることがわかりました。

このアンケートの成果については、次のとおり考えています。

① 県民一人ひとりの意見を聞く

自由記述の一つひとつを、一人ひとりのアイデアや思いのあらわれとして尊重し、検討に役立てることとします。

② 地域ごとの集計による多面的な分析を行う

集計結果についても、地域ごとや、年齢別など多面的に特徴をみたり、共通性を分析したりすることで、今後の検討に役立てます。



県民の日でのPRブースのようす



コープみえ秋の商品・くらしの活動交流会での啓発

(18) 誰もが利用しやすく、魅力的な博物館づくり

誰もが利用しやすく、魅力的な博物館づくりのため、事業実施方針に示した下記の4つの点から取り組みました。

- 1 県民アンケート等の実施 ※詳細は、26ページ参照
内容については、今後適宜生かしていくため、とりまとめて分析していくこととしています。
- 2 県民参加型モニター調査の実施 ※詳細は、51ページ参照
～展示検討ワークショップ～
見る側にとって、わかりやすく、楽しく、魅力的な展示のあり方について、県立博物館が企画・実施した移動展示を題材に、意見交換やアンケートによる集約を行いました。 ※移動展示(松阪市・桑名市)において実施
- 3 県民参加型による魅力的な博物館検討
1のアンケートとあわせ、みんなでつくる博物館会議2010、こども会議などを開催し、県民・利用者の皆さんに新博物館への期待や要望について意見交換を行いました。
ほかにも、障がい者団体やユニバーサルデザイン団体との意見交換の機会をもって、誰もが快適に過ごせる博物館について検討を行いました。
- 4 魅力的な新博物館の発信
新博物館の建築や展示の設計が完成したことから、これらの内容をもとに、今後具体的に新博物館の魅力を訴える広報を進めていきます。
また、毎日新聞「続・紙上博物館」(平成22年11月から毎週金曜に連載)、雑誌ミュゼ「making of 三重の新県立博物館」(平成22年7月から年4回発行に連載)の連載をはじめました。
さらに、開館をめざして魅力的な博物館をわかりやすく訴える広報をしていくための方法等の計画を検討していくとともに、県民参加型の広報についても検討していくこととしています。
今年度は、県が初めて、県の事業に必要な資金を確保するため発行した「市場公募債(募集期間:11月10日～11月19日)」について、新県立博物館の広報とあわせて、県民の皆さんに広く協力をお願いしました。その結果、発行金額100億円の一部を整備費に充当することができました。

(19) 運営方針等の検討、評価のしくみ調査・検討

(運営方針等の検討経過)

Vol.1 の第 2 章において検討課題とした運営方針（素案）のとりまとめのため、新博物館整備担当学芸員等の職員により運営に関するテーマ別検討を平成 22 年 8 月から 9 月にかけて実施しました。

この検討の過程で、運営方針と活動方針（調査研究方針、収集保存方針、交流創造エリア展開方針、展示方針）は、相互に関連しあうものであり、並行して検討を進めることが必要であることがわかりました。

(新博物館の活動と運営の方針（仮称）について)

平成 25 年度末に、運営だけでなく、活動方針とあわせ「新博物館の活動と運営の方針（仮称）」として一体的にとりまとめることとし、今年度検討した内容を第 2 章に平成 22 年度検討案としてお示ししました。

今後、県民・利用者や地域の団体、関係機関の皆さんと意見交換を行い、毎年内容を充実させ、全体をとりまとめることとしています。

(博物館マネジメントと評価のしくみ)

事業実施方針の段階では、評価のしくみが重要であり、その構築だけを課題としていましたが、検討を進める中で評価のしくみを含めた「計画－実施－評価」の流れを「博物館マネジメント」と呼んで、新博物館の活動と運営のしくみとして確立するよう検討を進めることとしました。

(評価のしくみの調査・検討)

博物館マネジメントのしくみの一部として新博物館の評価のしくみを確立するため、先進事例として、博物館分野で先行的に評価のしくみを整備している下記の博物館等の文献調査を行いました。今後、調べた内容をもとにヒアリング調査など詳しい調査に入っていくこととしています。

- 山梨県立博物館（数値評価・自己診断・通信簿ツアーで行う評価制度）
- 兵庫県立人と自然の博物館（全体のマネジメントのしくみを重視した数値指標による目標管理型の事業評価）
- 日本博物館協会（博物館の自己点検システムの提案、普及）

■県民の皆さんへの説明と意見集約の取組

23ページの「県民等への説明と意見集約（アンケート調査等）」については、みんなでつくる博物館の基本となる取組であることから、その実施状況等について詳細に報告します。

1 実施状況

（１） 多様な機会を通じた説明、意見交換、アンケートの実施

平成23年3月末までで、のべ91回（のべ約27,900人）のさまざまなイベントや会議などの機会を活用して、新県立博物館についての説明と意見交換を行いました。説明等の時間がとれない場合は、パンフレット等を配布し、アンケートにより意見等を集約しました。

（主な実施場所）

- ・ 移動展示（松阪）会場
- ・ ワークショップ、公民館講座、サポートスタッフ交流会など（博物館行事）
- ・ M祭、市町主催のイベントなど
- ・ 県民の日、美し国おこし三重成果発表交流会、Mie こどもエコフェア、子育て応援わくわくフェスタなど（県関係行事）
- ・ 知事と語ろう本音でトーク、市町等教育長会議、県PTA連合会役員会など（県関係機関等の会議）

以上のほかにPRキャラバン（公共施設、ショッピングセンター、観光施設など）を実施

アンケートの実施状況

①県立博物館主催、参加イベントでのアンケート

行事名	美し国おこし三重 成果発表交流会	松阪移動展示	M祭
回収数	167	757	202

②その他イベントでのアンケート

行事名	Mie こどもエコフェア	コープみえ秋の商品・くらしの活動交流会（9会場）	どんぐり祭り（松阪市）	子育て応援わくわくフェスタ
回収数	295	882	117	494

③PRキャラバン（公共施設、ショッピングセンターなど）でのアンケート

平成22年7月14日から2月末まで、県内でのべ131カ所の文化施設やショッピングセンター、観光施設などで、広報活動を行い、同時にアンケート調査を実施しましたところ、11,981名から回答を得ることができました。

(実施状況)

調査機会	調査場所	調査期間	回収数
県立図書館	津市	7月14日	169
津市図書館	津市	7月16日	192
Mie こどもエコフェア※再掲	四日市市	7月17日	164
Mie こどもエコフェア※再掲	四日市市	7月18日	131
松阪市図書館	松阪市	7月21日	86
桑名市立図書館	桑名市	7月22日	120
亀山博物館	亀山市	7月23日	8
斎宮歴史博物館	多気郡明和町	7月24日	14
伊勢市立図書館	伊勢市	7月27日	104
名張図書館	名張市	7月28日	137
亀山図書館	亀山市	7月29日	74
四日市図書館	四日市市	7月30日	173
M 祭※再掲	津市	8月1日	202
嬉野図書館	松阪市	8月2日	135
四日市博物館	四日市市	8月3日	92
久居図書館	津市	8月4日	82
鈴鹿市考古博物館	鈴鹿市	8月5日	38
桑名市博物館	桑名市	8月6日	44

みえこどもの城	松阪市	8月7日	62
鳥羽市立図書館	鳥羽市	8月10日	33
鈴鹿市文化会館	鈴鹿市	8月11日	86
四日市文化会館	四日市市	8月12日	93
ベルファーム	松阪市	8月19日	70
鳥羽水族館	鳥羽市	8月20日	123
モクモク手づくりファーム	伊賀市	8月23日	61
鈴鹿ハンター	鈴鹿市	8月24日	39
志摩マリンランド	志摩市	8月25日	116
津サティ	津市	8月26日	110
オークワ名張	名張市	8月27日	39
マックスバリュ亀山みずほ台	亀山市	8月30日	88
マックスバリュ川井町	松阪市	8月31日	67
マックスバリュ生桑	四日市市	9月1日	40
マックスバリュ津北	津市	9月2日	90
マックスバリュ上野東インター	伊賀市	9月3日	44
マックスバリュ鈴鹿中央	鈴鹿市	9月4日	90
マックスバリュ多気	多気郡多気町	9月7日	101
マックスバリュ垂水	津市	9月8日	146
マックスバリュ松阪中央	松阪市	9月9日	141
マックスバリュ菰野	三重郡菰野町	9月10日	65
マックスバリュ芸濃	津市	9月13日	105
マックスバリュ鈴鹿住吉	鈴鹿市	9月14日	101
マックスバリュ金剛坂	多気郡明和町	9月15日	83
マックスバリュ四日市	四日市市	9月16日	93
マックスバリュ名張	名張市	9月17日	57
マックスバリュサンリバー	三重郡川越町	9月21日	40
マックスバリュ白塚	津市	9月22日	62
ぎゅーとら明和	多気郡明和町	9月27日	87
ぎゅーとら大黒田	松阪市	9月28日	104
ぎゅーとら渋見	津市	9月29日	112
サンアリーナ※再掲	伊勢市	9月30日	91
マックスバリュ鈴鹿	鈴鹿市	10月1日	124
マックスバリュ大台	多気郡大台町	10月4日	106
マックスバリュ津東	津市	10月5日	137

マックスバリュユーズ	鈴鹿市	10月6日	150
華王殿※再掲	松阪市	10月7日	135
上野フレックスホテル※再掲	伊賀市	10月8日	54
マックスバリュサンフラワー	松阪市	10月12日	85
桑名シティホテル※再掲	桑名市	10月13日	131
メッセウィングみえ※再掲	津市	10月14日	144
マックスバリュ北勢	いなべ市	10月15日	82
せぎやまホール※再掲	尾鷲市	10月17日	60
じばさん三重※再掲	四日市市	10月18日	87
名張産業振興センター※再掲	名張市	10月19日	80
ぎゅーとら久居	津市	10月20日	139
ぎゅーとらハイジー	伊勢市	10月21日	136
鈴鹿地域訓練センター※再掲	鈴鹿市	10月22日	100
マックスバリュ港町	津市	10月25日	150
マックスバリュ笹川	四日市市	10月26日	150
ぎゅーとら持川	津市	10月27日	119
ぎゅーとら藤里	伊勢市	10月28日	81
マックスバリュ学園前	松阪市	10月29日	123
どんぐり祭※再掲	松阪市	10月31日	117
道の駅あやま	伊賀市	11月1日	35
マックスバリュ桜花台	四日市市	11月2日	51
高虎楽座	津市	11月3日	198
ぎゅーとら小俣	伊勢市	11月4日	60
四日市ドーム	四日市市	11月5日	199
四日市ドーム	四日市市	11月6日	178
元気っ津まつり	津市	11月7日	110
嬉野 PA(上り)	松阪市	11月8日	124
嬉野 PA(下り)			176
マックスバリュ岡田	鈴鹿市	11月9日	96
安濃 SA(上り)	津市	11月10日	83
安濃 SA(下り)			100
ぎゅーとら神田久志本	伊勢市	11月11日	81
道の駅おおだい	多気郡大台町	11月12日	94
奥伊勢 PA(上り)	多気郡大台町	11月15日	70
奥伊勢 PA(下り)			63

マックスバリュ郷津	松阪市	11月16日	81
ぎゅーとら一志	津市	11月18日	96
五桂池	多気郡	11月20日	116
マックスバリュ一志	津市	11月30日	124
名張青少年センター	名張市	12月4日	108
いつきのみや歴史体験館	多気郡明和町	12月11日	38
明和町図書館	多気郡明和町	12月16日	46
菰野町図書館	三重郡菰野町	12月17日	78
大台町図書館	多気郡大台町	12月20日	43
道の駅木つつ木館	度会郡大紀町	1月10日	62
道の駅パーク七里御浜	南牟婁郡御浜町	1月11日	83
道の駅紀宝町ウミガメ公園	南牟婁郡紀宝町	1月11日	94
道の駅まんぼう	北牟婁郡紀北町	1月12日	76
あさひライブラリー	三重郡朝日町	1月13日	45
ぎゅーとら五ヶ所	度会郡南伊勢町	1月14日	32
二見シーパラダイス	伊勢市	1月15日	41
グッディ玉城	度会郡玉城町	1月17日	59
ミセスマート菰野	三重郡菰野町	1月19日	56
マックスバリュ鵜方	志摩市	1月21日	61
川越電力館テラ 46	三重郡川越町	1月22日	70
A コープ木曽岬店	桑名郡木曽岬町	1月24日	45
輪中の郷	桑名市	1月25日	19
熊野市図書館	熊野市	1月26日	82
東員町総合文化センター	員弁郡東員町	1月26日	34
道の駅関宿	亀山市	1月27日	40
ぎゅーとら垣鼻	松阪市	1月28日	56
わくわくフェスタ※再掲	四日市市	1月29日	208
わくわくフェスタ※再掲	四日市市	1月30日	286
道の駅伊勢志摩	志摩市	1月31日	37
サンシ生桑	四日市市	2月1日	56
道の駅海山	北牟婁郡紀北町	2月1日	54
ぎゅーとら下村	松阪市	2月2日	73
サンシ玉垣	鈴鹿市	2月4日	117
パラミタミュージアム	三重郡菰野町	2月5日	34
サンシ河芸	津市	2月8日	132

道の駅飯高	松阪市	2月9日	71
ぎゅーとら鳥羽西	鳥羽市	2月10日	62
サンシ大矢知	四日市市	2月15日	82
サンシサンビーム	四日市市	2月16日	53
ぎゅーとら鳥羽東	鳥羽市	2月17日	56
サンシ桜花台	四日市市	2月21日	55
マックスバリュ神田久志本	伊勢市	2月23日	70
度会町役場	度会郡度会町	2月28日	38
合計			11,981

○アンケートの結果（認知度）

- ・新県立博物館ができることを「知っていた」方の割合は、42.0%でした。
- ・21年度と22年度（2月末現在）の認知度を比較すると、38.7%から42.0%と、3.3ポイント増加しました。

○今後の対応

- ・津市内の方と、津市以外の方では、認知度に大きな隔たりがあるため、津市内はもとより、より広い地域の方の認知度向上を図るため、さまざまな場所、機会で、各関係機関との連携のうえ効率的・効果的なPR活動を検討し、展開します。

（２）（予定地周辺）住民説明会の実施

津市内の新県立博物館建設予定地周辺の4連合自治会（津西地区、北立誠地区、南立誠地区、一身田地区）（地域内居住：約15,000世帯、約38,000人）の皆さんを対象に、設計・工事について回覧板等でお知らせするとともに、説明会を開催しました。

説明会 開催日	6月5日
参加人数	57人

（３） みんなでつくる博物館会議（分科会）での意見交換・アンケート調査

みんなでつくる博物館会議の分科会で意見交換・アンケートを実施しました。

- ・展示検討ワークショップ ～県博の移動展示を題材に～
- ・ユニバーサルデザイン（UD）についての意見交換会

- ・三重県立博物館サポートスタッフ交流会
※提案、意見等の詳細については、51ページ参照

(4) 「こども会議」からの提案

小学校1年生から中学校3年生までの各地から集まった29名から提案や意見をもらいました。

※提案、意見等の詳細については、50ページ参照

(5) みんなでつくる博物館会議2010

平成23年2月に開催した「みんなでつくる博物館会議2010」のなかで、新県立博物館や今後の「みんなでつくる博物館会議」のあり方などについて、意見交換を行うとともに、参加者へのアンケートを実施しました。

※提案、意見等の詳細については、49ページ参照

2 意見への対応

いただいた意見については、検討に生かせるよう、下記のとおり主要な意見項目別に整理しています。

(主な意見項目)

	項 目
建築	① 施設の使いやすさ、わかりやすさ等に関すること
展示	② 展示内容に関すること ③ 展示方法に関すること ④ 展示運営に関すること
博物館活動	⑤ 博物館活動全般に関すること ⑥ 調査研究活動に関すること ⑦ 収集保存活動に関すること ⑧ 資料閲覧等に関すること ⑨ 催し、プログラムに関すること
公文書機能	⑩ 公文書館機能の整備に関すること
連携	⑪ 連携に関すること
運営広報	⑫ 運営全般に関すること ⑬ 運営への参画に関すること ⑭ 広報・宣伝に関すること
その他	⑮ その他博物館が提供するサービスに関すること

	⑯交通アクセス・動線等に関すること ⑰ユニバーサルデザインに関すること
遠隔地	⑱遠隔地の県民へのサービス、アウトリーチに関すること

第2章 2010（平成22）年度の検討内容から

2010(平成22)年度に検討してきたことについて、県民の皆さんとともに、今後意見交換等を行っていくため、次のとおり報告します。

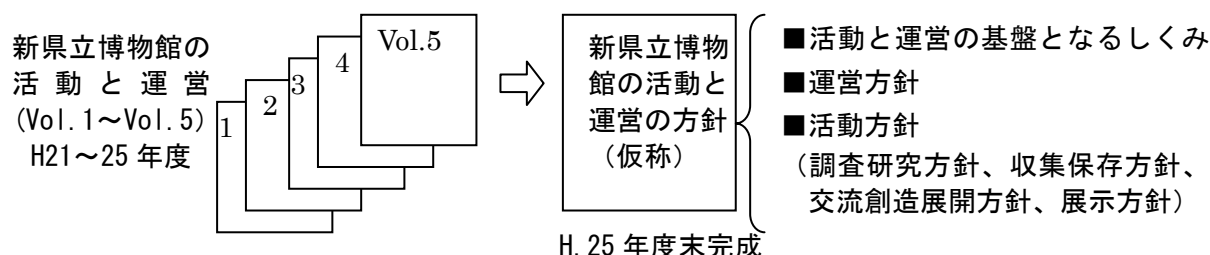
■ 「新県立博物館の活動と運営の方針(仮称)」 の検討

1 新県立博物館の活動と運営の方針(仮称)のとりまとめについて

開館後の活動や運営の基本的な内容については、「新県立博物館事業実施方針(平成21年3月)」において、運営方針、調査研究方針などの各方針を順次検討し、開館までに作成することとしています。これらを開館時に「新県立博物館の活動と運営の方針(仮称)」としてとりまとめたいと考えています。

毎年検討を重ね、その結果を年度ごとに博物館づくりの取組をとりまとめる「新県立博物館の活動と運営」(Vol.1～Vol.5)の中でお示しして、県民の皆さんとの意見交換を進めていきます。さらに、この「新県立博物館の活動と運営」(Vol.1～Vol.5)をもとに、平成25年度末に「新県立博物館の活動と運営の方針(仮称)」をまとめ、開館後の活動と運営に関する基本方針とします。

「新県立博物館の活動と運営の方針(仮称)」の主な構成と検討時期は、下記のとおり予定しています。



「新県立博物館の活動と運営の方針(仮称)」の主な構成

※最終的に、平成25年度末をめどに作成

序 章 めざす博物館に向けて ―活動と運営の基本的な考え方―

第Ⅰ章 活動と運営の基盤となるしくみ

※平成22年度に検討案、22年度～24年度に検討、概成

第Ⅱ章 運営方針 ※平成22年度に検討案、22年度～24年度に検討、概成

1 基本的な考え方

2 設置条例など基本的事項

3 運営形態

4 運営基盤（職員体制、組織、連携体制、外部資金の活用）

5 活発な利活用、魅力的で持続性のある博物館のための取組

第Ⅲ章 活動方針 ※平成23年度に検討案、23年度～24年度に検討、概成

1 基本的な考え方

2 調査研究活動 ―調査研究方針―

3 収集保存活動 ―収集保存方針―

4 活用発信活動 ―交流創造展開方針・展示方針―

2 平成22年度検討案

目 次

序 章 めざす博物館に向けて ―活動と運営の基本的な考え方―

1 基本的な考え方

(1)新県立博物館の使命と活動・運営

(2)「ともに考え、活動し、成長する博物館」

2 開館時期について

第Ⅰ章 活動と運営の基盤となるしくみ

1 活動・運営管理（博物館マネジメント）のしくみ

(1)計画段階

(2)実施段階

(3)ふりかえり・評価段階

2 日常的に博物館づくりへ参加・参画するしくみ

3 連携のしくみ～連携・協力体制の構築～

4 公文書館機能の確保のためのしくみ

第Ⅱ章 運営方針

1 基本的な考え方

2 設置条例、名称

3 運営形態

4 運営体制（職員体制、組織、県民・利用者組織）

5 連携組織（ネットワーク、協議会等）

6 活発な利活用の推進

7 利用者の視点で進める魅力的な博物館運営

8 効果と効率、持続性に配慮した管理運営

第Ⅲ章 活動方針

1 活動全般についての考え方

2 調査研究活動 ―調査研究方針―

3 収集保存活動 ―収集保存方針―

4 活用発信活動 ―交流創造展開方針・展示方針―

1 基本的な考え方

(1) 新県立博物館の使命と活動・運営

新県立博物館は、

- ① 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす
- ② 学びと交流を通じて人づくりに貢献する
- ③ 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

ことを使命としています。

これらの使命を果たすことで、県民・利用者の皆さんが、自己の生きがいや成長を得るとともに、地域に目を向け地域をよくしようという意欲が湧いてくるきっかけとなることをめざしています。

また、県立博物館としての拠点機能を発揮して、館所蔵の資料にとどまらず、県内の市町や博物館と連携して県内の貴重な資産を保全・継承する活動や人材育成・技術支援等について市町や地域を支援する役割を果たすこともめざしています。

新県立博物館は、調査研究、収集保存、活用発信の活動を通じて、これらの使命や役割を果たします。この新県立博物館が、充実した活動を行っていきけるようにするのが運営の役割です。

(2) 「ともに考え、活動し、成長する博物館」

新県立博物館は、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動理念とし、常に、「協創」と「連携」の視点で、県民・利用者の皆さんと活動を展開し、館の運営を行っていきます。

2 開館時期について

「活動と運営の方針(仮称)」は、以上の基本的な考え方を前提に、「新県立博物館基本計画(平成20年12月)」(以下「基本計画」という。)や「新県立博物館事業実施方針(平成21年3月)」(以下「事業実施方針」という。)の内容にそって、開館後の博物館活動と運営の基本的事項を明確にします。

検討の前提となる開館時期については、目標としている「平成26年春」として検討を行います。

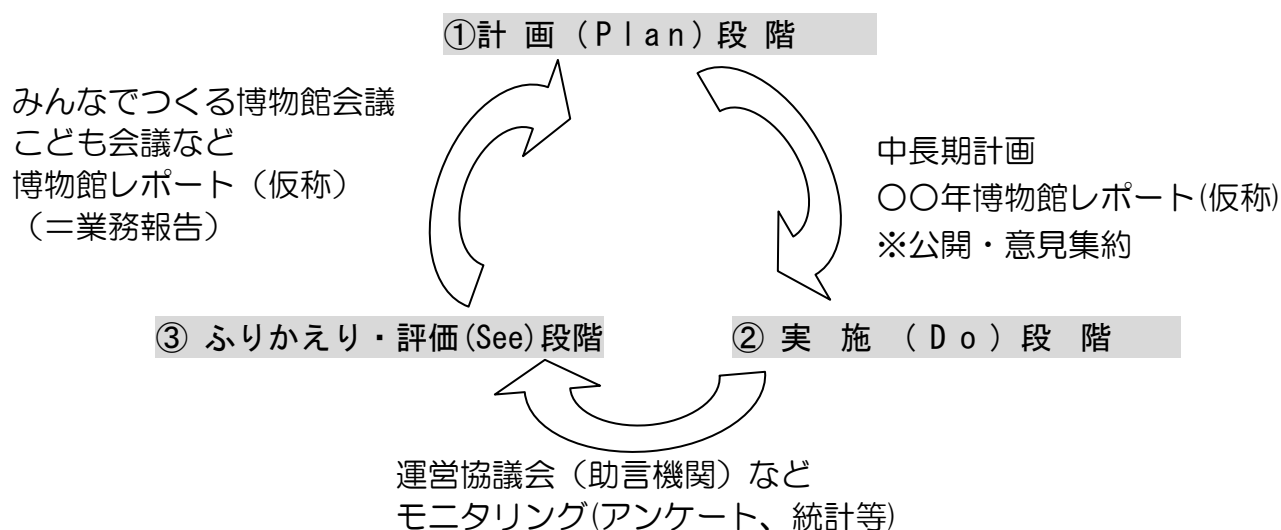
第Ⅰ章 活動と運営の基盤となるしくみ

1 活動・運営管理（博物館マネジメント）のしくみ

新県立博物館の活動を県民・利用者の皆さんと、「ともに考え、活動し、成長させていく」ため、最も重要な基盤となるのが「博物館マネジメント」です。

新県立博物館では、「博物館マネジメント」として、毎年の活動と運営を「計画（Plan）－実施（Do）－評価（See）」のサイクルとして展開していくしくみを構築します。

【博物館マネジメントのイメージ図】



（１）計画段階

① 中長期計画

運営協議会やみんなでつくる博物館会議などに意見を求めながら、長期（10年程度）を見越した中期（5年程度）の計画を作成、公表する。

※計画項目－5年間の取組方針（重点的に取り組む方向など）、取組内容、活動と運営の成果や業務量を表す指標・目標値など

② 年次計画

年間の事業計画を作成し、概要は、「〇〇年博物館レポート（仮称）」に掲載するなど、公表する。

（２）実施段階

実施にあたっては、アンケート、モニター制度などを工夫し、利用者による評価を集約する。

利用者数、調査研究件数など、博物館の状況を表す数値データなども集計する。

(3) ふりかえり・評価段階

実施段階で得たアンケート等の活用を盛り込んだ評価のしくみを構築する。構築にあたっては、自己評価、第三者評価を組み合わせた総合評価のしくみを検討する。

評価のしくみの構築

※平成 23 年度末をめどに検討、開館までに構築

先行事例を詳細に調査し、自己評価と第三者評価（県民参加型評価を含む。）を効果的に取り入れた制度を構築し、指標設定などを県民の皆さんとともに検討します。

- ・ 先行事例調査（平成 22～23 年度に検討）
- ・ 制度の概要と構築スケジュール検討（平成 23 年度に検討）
- ・ 指標等の内容の議論、設定（平成 24～25 年度に検討）

2 日常的に博物館づくりへ参加・参画するしくみ ※平成24年度までに方針

新県立博物館では、県民・利用者の皆さんが、自身の興味や成長に応じて参加から参画へ段々と博物館への関わり方を深め、広げていけるような工夫をすると同時に、関わり方の段階に応じて多様な機会の提供や受け皿を用意することとしています。

特に、活動と運営への日常的な博物館づくりへの参加、参画の形態に着目して、下表を参考に検討を進めます。

◆県民・利用者の博物館活動・運営への参画の想定整理表（例）

種別 関わり 方の度合い	サービス提供型	両面型	参画・運営支援型
	〔県民・利用者〕主に支援を受ける側 〔博物館・学芸員〕主に支援し、機会を提供する側	※博物館サポートスタッフ	〔県民・利用者〕主に支援する側 〔博物館・学芸員〕主に支援を受ける側
導入段階 ※博物館との出会い・入口	《博物館から情報提供》 ・メール会員 ・博物館ファンクラブ		《博物館に意見や感想を提供》 ・モニター会員 ・アンケート会員
参加段階 ※博物館との一般的関わり	《博物館からサービス提供》 ・博物館友の会 ※友の会には博物館への支援を掲げたところも多いがひとまずここに分類		《博物館活動に主体的に参加》 ・ボランティア（一般的活動） ※行事サポートや展示解説など、一般的な博物館活動のボランティア ・参加型の調査研究活動
参画段階 ※博物館との深い関わり	《博物館が活動をサポート》 ・グループ活動		《博物館活動を主体的にサポート》 ・地域資料調査員 ・ボランティア（専門的活動） ※資料整理や運営など、専門的・業務的な博物館活動のボランティア ・専門研究員 ※専門的な調査研究における成果のとりまとめや情報発信を行う
自立段階 ※連携パートナー	《博物館と連携した活動》 県民(市民)学芸員 NPO法人化するなどの活動		
	自己実現（生涯学習）へ 地域づくりへ		

※本表は考え方の整理のために類型化したものであり、実際にはいろいろな要素が混じりあっていることも多いと思われます。

※本表に記述されている「博物館ファンクラブ」、「モニター会員」など組織や会員などの個別名称については、他館の事例などを参考に、イメージを伝えるために記述しているもので、新県立博物館において必ずしも設置を予定しているものではありません。

3 連携のしくみ ～連携・協力体制の構築～ ※平成25年度までに試行、実施

新県立博物館では、より充実した博物館活動を展開していくため、他の博物館や関係機関との連携や、地域の団体との連携を積極的に進めます。また、連携関係を定着させるなかで、互いに支援しあう体制としくみを整えます。

(1) 県内博物館との連携

県内の博物館が互いに連携・支援しあうゆるやかなネットワークを整備します。このための方針を早期につくり、関係機関と協議を重ねていく必要があります。

(2) 大学・研究機関等との連携（相互協力協定の締結など）

三重大学をはじめとする県内大学や他の博物館などのうち、館の方針に照らして、特に日常的に協力関係を築いていくべき相手先とは、相互協力協定を締結するなど、共同研究や人事交流、共同事業など館どうしの連携、交流関係を構築します。

特に、三重大学とは、博物館を活用した小中学校の学習カリキュラムの検討など大学の研究教育の内容と連動した取組を検討します。

(3) 学校との連携

博物館を活用した学校教育の実施に向けて、市町の教育委員会や地域の小中学校と出前授業やモデル事業の実施や学習カリキュラムの検討などの連携した取組を進めます。

(4) まちかど博物館との連携

県内の地域に500館余りあるまちかど博物館について、個々の状況や地域の状況を踏まえつつ、開館までに連携した取組や意見交換を行い、連携の内容の方向を共有できるように進めます。

(5) 地域の自然・歴史・文化に関する団体との連携

地域で活動する自然系、歴史系等の団体については、それぞれの団体の活動を尊重しつつ、例えば、三重の自然環境や地域の文化財の保全などの共通目的のための連携した取組や、新県立博物館が行う研修会やワークショップ、調査研究などへの協力関係を築きます。一方、新県立博物館としては、各団体が必要とする支援を提供する体制も必要です。今後、連携して活動する中で、必要な連携環境の整備を進めます。

(6) 「文化と知的探求の拠点」や他の行政機関との連携

県総合文化センターの各施設をはじめ、さまざまな施設間連携を進めることで、互いの機能強化、魅力向上につなげます。あわせて、テーマに応じて共同展示を行うなどの施策連携の取組を進めていきます。

(7) 県外及び国外の博物館や大学・研究機関との連携

他地域との比較により三重県のもつ自然・歴史・文化の特性や独自性、普遍性を明らかにするため、県外の博物館や大学・研究機関との共同調査・研究や連携展などを進めます。

4 公文書館機能の確保のためのしくみ

※平成 24 年度末をめどに検討、平成 25 年度に諸規程整備

新県立博物館の公文書館機能を確保するために必要なしくみを整備します。

特に必要なことは、公文書館の機能を整理し、県の各部局、文書担当部、博物館の役割分担を明確にし、文書の作成から歴史的公文書として保存、公開する流れをしくみとして整備することです。このため、規則等の諸規程の整備をあわせて行っていくとともに、施設、人材の整備が必要です。

現時点では、下記の②～⑤については、博物館側で整備を行っていく必要があると考えられます。

- ①県の執行部局で作成した公文書が適切に保存、移管される体制
- ②移管された公文書を選別する場所とそのための諸規程
- ③選別後の歴史的公文書を整理し、受け入れるための施設
(例：生物被害処置室、公文書等保存処理室、公文書整理室、歴史資料収蔵庫（歴史的公文書資料含む）)
- ④博物館資料の閲覧と異なる点を踏まえた、歴史的公文書閲覧に際しての必要な規程と適切な施設（例：資料閲覧室、書庫、展示室）
- ⑤公文書館機能を発揮するための専門人材（アーキビスト）

第Ⅱ章 運営方針

1 基本的な考え方

新県立博物館の使命や役割、活動理念などをふまえて、「基本計画」においては、博物館の運営を進める上で大切にすべきことを次のとおり定めています。

- ①県民・利用者との協創により、運営を進める。
- ②多様な主体との連携により、効果的な博物館運営を進める。
- ③博物館の質や魅力、県民・利用者の満足度を持続的に高める。
- ④開かれた博物館として、県民・利用者の立場に立った運営を行う。
- ⑤効果的・効率的な運営のもとで博物館の使命・役割を持続的かつ着実に果たす。
- ⑥環境保全の大切さを発信する管理運営を行う。

2 設置条例、名称

(1) 設置条例 ※平成 24 年度末までに方針決定、25 年度末に制定

設置条例は、平成 25 年度後半に制定することをめどに検討を進めます。

検討にあたっては、現県立博物館設置条例の措置や、別に公文書館設置条例制定の必要性について明らかにする必要があります。特に、指定管理者制度を導入するか否かにより、条例の制定時期や規定内容が大きく異なる部分が出てくる可能性があります。

(条例で規定すべき項目の例示)

- ①設置目的・趣旨
- ②設置場所、名称
- ③開館時間及び休館日
- ④業務、博物館事業
- ⑤職員
- ⑥指定管理について（指定管理者の指定、指定管理者の業務等）
- ⑦入館料（料金、減免等の手続き）
- ⑧資料の観覧料（観覧許可、観覧料、損害賠償等）
- ⑨利用について（許可、利用料金、損害賠償等）
- ⑩博物館協議会
- ⑪遵守事項、その他（規則への委任）

(2) 名称等について ※平成 24 年度末をめどに検討

新県立博物館が、三重県立の総合博物館であることや、公文書館機能を一体化した博物館であることなどをわかりやすく表現した名称を平成 23 年度末までに検討し、最終的には、設置条例において定めていくこととします。

あわせて、新県立博物館のイメージを伝えるための愛称やロゴ、イメージキャラクターなどについても、公募など広報機会としても活用しながら、平成 24 年度末をめどに、決定していくこととします。

3 運営形態

(1) 運営主体 **※平成 24 年度末までに検討、設置条例に反映**

基本計画において、新県立博物館の設置・運営は、博物館の基幹的な業務（学芸業務など）については県直営で行う「公設公営・一部民営（一部指定管理）」としています。これに基づき、指定管理者制度の導入範囲等を検討し、新県立博物館の設置条例に規定する必要があります

指定管理者制度の導入範囲等の検討にあたっては、新県立博物館の使命や目的を踏まえた実施事業や広報活動などの具体的な内容、県総合文化センターとの連携、長期的にみた場合の効果や効率性に配慮した検討を行います。

(2) 開館形態

① 開館日・開館時間 **※平成 24 年度末までに明確化、設置条例に反映**

県総合文化センターの各施設の開館日・開館時間との整合性を図ります。

新県立博物館の使命を果たし、特色を発揮できるような開館形態とします。

県民の皆さんにとって、活用しやすく、活発な交流の場ともなる博物館として、ある企画展の場合や一部のエリアは夜間の営業もするなど、県民ニーズや効果・効率など運営面の可能性を考慮しながら、検討を行います。

② 入館料等 **※平成 24 年度末までに明確化、設置条例に反映**

館内の無料・有料のエリア区分については、テーマ展示室は、展示内容等により有料と無料の区分を行い、こども体験展示室を除く交流創造エリア及びエントランスエリアについては、無料とします。基本展示室及びこども体験展示室については、同じ区分で扱うこととし、有料区分か無料区分かについて、今後方針を定めていくこととします。

また、県立の各施設の利用料金との整合性を図ります。

あわせて小中学生や高齢者、心身に障がいをもつ方やその介護者を無料にするなど、無料入場者の範囲についても明確にし、条例や規則に反映します。

年間パスポートや県総合文化センターとの相互利用を促進するような割引制度など、館の理念やめざす博物館活動を踏まえ、誘客にもつながる料金体制を検討します。

4 運営体制

(1) 職員体制 **※平成 24 年度末までに整備計画を検討し、開館までに整備**

平成 22 年度は、顧問を設置するとともに、3 名の学芸職員を新規採用したところです。今後、高い博物館マネジメント能力をもった館長を任用することに加え、新県立博物館の専門職員の対応分野を以下のとおり確保し、業務を円滑に進めることのできる人員配置を計画的に行うよう関係部と協議を進め、できるものから実行します。

また、具体的な業務計画をもとに、開館時における非常勤職員（専門、事務）を含めた全体の職員体制の整備計画を、平成 24 年度末をめどに検討を進めます。

■ 専門職員の担当分野一覧(予定)

分野		業務内容
総合研究分野	○ 博物館学	・ 公文書館機能を一体化した博物館の運営・活動の総合的な研究と実践
	○ 保存科学	・ 資料保存・保存環境の調査研究 ・ 資料保存にかかる科学分析、修復、環境整備等
	○ アーカイブズ学	・ 歴史的公文書及びアーカイブズの調査研究 ・ 県公文書の選別・整理
	○ 資料情報学	・ 資料等情報化に関する調査研究 ・ 映像・音声などアーカイブズの整理・管理
自然研究分野	○ 動物学 ○ 植物学 ○ 地学	・ 各専門分野の資料等に関する調査研究 ・ 各専門分野の資料等の収集・整理・管理（資料評価を含む。）※必要に応じて、修復等処理
人文研究分野	○ 歴史学 ○ 美術工芸史学 ○ 民俗学	

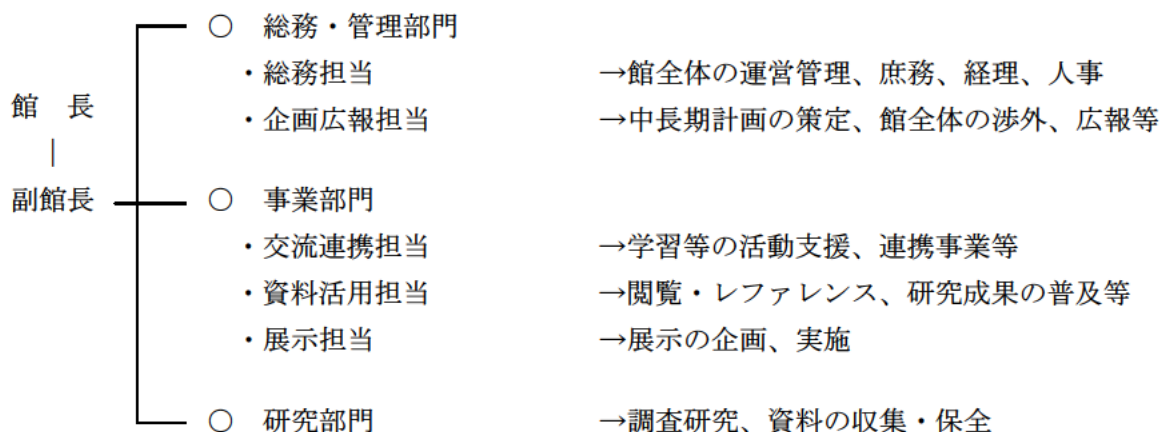
※上記の分野別の業務内容以外に、専門職員は全員、展示や資料閲覧・相談など活用発信活動等を業務内容とします。

以上のほか、非常勤職員においては、司書、展示・博物館教育に専門性をもった職員、歴史的公文書の選別担当の配置などを検討します。

(2) 組織 ※平成24年度末をめどに検討

新県立博物館の理念に基づく活動を効率的・効果的に展開するため、組織体制をどのようにするかは、大変重要な問題です。

このため、学芸員等専門職員が、調査研究、収集保存、活用発信の活動をバランスよく展開できるような人材育成にもつながり、多様な博物館業務を展開しやすい組織のあり方として、下記を基本としつつ、具体的な想定業務、職員人数等を踏まえた開館時の組織体制を平成24年度末をめどに明確にします。



※ 全専門職員が、総務・管理部及び事業部と兼務

※ 組織全体を通じて、公文書館機能を確保

注意)・組織名称は仮称です。

(3) 県民・利用者組織（日常的な参加・参画のための場の整備）

県民・利用者の皆さんとともに博物館づくりを進めるために、日常的に県民・利用者の皆さんが博物館づくりに参加・参画し、活動や運営を支援するしくみを整備します。とりわけ、参画に関わるさまざまな組織の目的や性格を平成 23 年度末までに明らかにして、開館までに整備します。あわせて、「みんなでつくる博物館会議」、「こども会議」などについても、試行的に実施しつつ、開館までに、位置づけや実施形態などを明らかにします。

（参画のしくみとして検討するもの）

- ・運営協議会など、博物館運営のための組織として位置づけるもの
- ・みんなでつくる博物館会議、こども会議など運営のしくみとして位置づけるもの
- ・サポートスタッフ
- ・ボランティアスタッフの種別と組織化
- ・友の会的な支援組織
- ・団体や企業等からの支援体制

①運営のための組織、会議 ※平成 24 年度末までに検討、順次実施

運営協議会、みんなでつくる博物館会議、こども会議など博物館運営について検討する組織として位置づけるものの目的、役割等について、平成 24 年度末までに明確にし、必要なものについては、設置条例に明記し、規程等の整備を進めます。

②博物館活動への参加組織 ※平成 24 年度末までに検討、順次実施

現行のサポートスタッフをはじめ、ボランティア組織や友の会などの組織について整理し、新県立博物館で整備するものの目的や位置づけなどについて明らかにします。

③支援組織 ※平成 23 年度末をめどに検討、できるものから具体化

県民、団体、企業等の支援体制について、平成 23 年度末をめどに検討し、整備に取り組みます。

また、県民学芸員(仮称)や地域の人材など、博物館活動を支える人材についても、検討を行い、必要な規程等の整備を行います

④外部人材の参画・連携のしくみ ※平成 24 年度末までに検討、順次実施

共同研究や外部研究員の受け皿にもなる館側の調査研究のための制度について検討し、規程等の整備を行います。

5 連携組織（ネットワーク、協議会等） ※平成 25 年度末までに検討

三重県博物館協議会など、県内外のすでにあるネットワークや協議会などとの連携関係や方向を明確にして、必要な対応を進めます。

6 活発な利活用の推進

(1) 開館後の広報計画 **※平成 23 年度末をめどに検討、順次実施**

学校見学や県内外の団体客などへの対応を含めた開館後の広報計画について、平成 23 年度末をめどに検討し、順次体制の整備を進めます。特に、県総合文化センターとの連携による総合的な取組を行っていくことが重要です。

なお、開館までの広報計画は、開館後の広報計画とも連携しながら、別に進めていくこととします。

(2) 開館後の広報体制の整備 **※平成 25 年度末をめどに検討、順次実施**

広報計画に基づき、県総合文化センターや美術館など関係機関はもとより、学校関係や各種団体、観光関係機関などとのネットワークを構築するとともに、インターネットや広報物など利用者への広報手段や体制を整備します。

7 利用者の視点で進める魅力的な博物館運営

(1) 博物館の魅力を高めるサービス展開 **※平成 24 年度末までに検討**

ミュージアムショップ(売店)については、指定管理者制度の導入範囲の検討とあわせて、平成 24 年度末までに内容の検討を進めます。

(2) 誰にとっても快適な施設をめざして **※開館前から開館後へ引き続き検討**

開館までに施設づくりとして進めている障がい者団体等やUD(ユニバーサルデザイン)団体との意見交換をもとに、開館後の多様な利用者が楽しめ、快適に過せるためのUDの視点での運営計画の検討と実施を進めます。

8 効果と効率、持続性に配慮した管理運営

(1) 資金

① 資金計画 **※平成 25 年度に作成**

毎年度の収支計画を明確にするとともに、大規模修繕や展示リニューアルなど長期的かつ効果的・効率的な視点で資金計画の作成を進めます。

② 多様な外部資金等の調達、活用 **※平成 23 年度以降検討、実施**

開館後、外部資金をいかに獲得し、博物館活動の充実と拡大につなげるかは、重要な課題です。各種助成金、補助金などによる研究や事業の資金獲得について積極的に取り組みます。また、博物館の活動について広く理解を得るための取組を積極的に行い、寄付金などの支援の体制について、検討を進めていきます。特に、各種研究資金を受ける上で、新県立博物館が研究機関としての位置づけを持つ必要があるなどの課題があれば、その解決についての取組を行います。

(2) 理念に基づく効果的で効率的な運営の実施と公開

① 運営マニュアルの作成 ※平成 24 年度までに検討、25 年度前半に作成

危機管理、非常対応なども含めた館内の場所や業務に応じた運営マニュアルを作成し、開館までに実地訓練等を行い、常勤、非常勤等働き方のいかに問わず、全スタッフに徹底させます。

② 「博物館レポート(仮称)」の発行と公開 ※開館後

新県立博物館の運営内容については、毎年度業務報告書として「〇〇年博物館レポート(仮称)」によりとりまとめ、公表するとともに、「資産カルテ」の作成、公表も行います。あわせて、運営協議会や毎年実施する「みんなでつくる博物館会議」、「こども会議」などにおいて、意見を聴取するなど、よりよい運営に向けて取組を進めます。

(3) 環境保全の大切さを発信する管理運営 ※開館後

新県立博物館の建築にあたっては、太陽光発電や地中熱を利用した空調熱源システム、ハイブリッド照明などの省エネルギーの実現や、縦ルーバーの設置、外断熱工法や床吹出し空調方式、高効率照明器具などの採用や IPM(総合的害虫管理)の考え方による収蔵庫の環境確保など環境に配慮した施設としています。このような環境保全の大切さを発信する施設として、環境学習の場づくりを行うとともに、継続的に環境負荷の低減に留意した管理運営を行い、よりよい三重の環境づくりや地域環境の保全に取り組みます。

(4) 地元地域との良好な関係づくり ※開館前から順次検討し、実行

新県立博物館が、地元地域に親しまれ、支持されるよう、地域協議会(仮称)の設置や地域との共催事業・イベントなどについて、検討を進め、実行していきます。(地域協議会の設置、地域と共催する事業・イベントなど)

※平成 23 年度に以下の項目について検討案を示します。

○活動全般についての考え方

○調査研究活動について

※●調査研究方針

- ・調査研究の種類
- ・調査研究の体制
- ・調査研究計画と実施、評価

○収集保存活動について

※●収集保存方針

○活用発信活動について

※●交流創造展開方針

- ・レファレンス、資料閲覧に関すること（閲覧手続き、規則等）
- ・学習プログラム計画
- ・県民活動室の運用方針

●展示方針

■ みんなでつくる博物館会議・こども会議

みんなでつくる博物館会議（全体会・分科会）及びこども会議で実施した意見交換の内容や、アンケート調査の結果をもとに、今後の取組方向について検討しました。

1 みんなでつくる博物館会議 2010（全体会）

「みんなでつくる博物館会議 2010」（全体会）は、新県立博物館に向けた取組の進捗状況について、県民の皆さんに報告し、オープンな意見交換を行い、アイデアなどを出し合い交流する場として、昨年度から開催しています。

この会議では、年間を通じ、地域や大学などさまざまな場を活用して意見交換を行った成果を集約しながら、「新県立博物館の活動と運営」などをもとに、県民の皆さんと考える機会としています。

また、「みんなでつくる博物館会議」は、新県立博物館づくりへの県民の皆さんの参画の場であると同時に、開館後のこの会議の方向性を見いだしていくための試行錯誤の場として開催しました。

（実施概要）

日時：平成23年2月13日（日）

会場：三重県総合文化センター 大・中研修室

参加者：95名

内容：県内外の博物館をよく利用している3名の方の講演と、意見交換がなされました。また、質問用紙やアンケートには、それぞれ39名と16名から回答をいただきました。

（意見等）

○みんなでつくる博物館会議に対する意見

- ・感想・意見・質問用紙にて記入し、質問できるのはよかった。また、その後の質問では、「みんなでこのような博物館にしよう」という意見が出るといいなと思った。
- ・交流会、もう少し時間があればよかった。
- ・グループディスカッションのような小グループの会話のほうが意見が出やすいのではないかと思います。
- ・付箋を使ったやり方は、意見を出しやすく、よかった。
- ・新博物館が具体化され、参加者からも、多様な意見が具体的な内容として発言され、新博が身近なものとなってきたことを実感した。

○新県立博物館に対する意見

- ・みんなが参加できる参加型博物館を目指してほしい。
- ・三重県立博物館のサポートスタッフを活用してほしい。（来館者に対しての説明・案内、学芸員と一緒に調査・研究・企画・展示への参加）
- ・地域での活動の成果をまとめて、企画展示する催しをすることによって、地域の活動を盛んにするようにしたらどうか。地域ごとの「研究会」のようなものをつくる後押しを博物館がして、その活動につなげる。
- ・公文書館機能について、現在どこまで計画されているのか知りたい。図書館との連携について、デジタルアーカイブをつくってもらえないか。
- ・子どもが楽しめるように、展示物に触れて、見て、感覚的にわかる博物館になるとよい。
- ・おもしろい、生きている博物館にしてほしい。旭山動物園の生態展示や、トヨタの博物館の動かせる展示のように。
- ・食べられる、あるいは食べ方の紹介があるなど、一見奇抜なアイデアであっても話し合い、学芸員の自己満足ではない博物館を期待する。

2 こども会議

「こども会議」は、「みんなで作る博物館会議」と同様、試行錯誤を重ねながら毎年開催し、開館後も子どもたちの博物館づくりへの参画のしくみの一つとなるように取り組んでいます。

（実施概要）

日時：平成 22 年 11 月 28 日(日)

会場：三重県総合文化センター セミナー室 C

参加者：92 名（子ども 29 名、大人 63 名）

内容：今年度ティーンズプロジェクトやきわめるプロジェクトなどで、子どもたちが学芸員と一緒に博物館活動に参加した成果を発表し、子どもたちにとって魅力的な博物館とはどのようなものか、新しい博物館のあり方について話し合う座談会を開催しました。知事を含めた大人も交えて、活気のある意見交換が行われました。

（意見等）

アンケートには、子ども 22 名、大人 18 名から回答をいただきました。

○こども会議についての意見

- ・プロジェクトに参加して、博物館が身近に感じられるようになった。

参加した子どもは、大人になっても博物館が好きですと来ると思うので、今後も体験型のプロジェクトを続けてほしい。

- ・ポスター発表で、他のグループの人たちと交流したり、調べた資料を見ることができて楽しかった。

○新県立博物館に対する意見

- ・ますます新しい博物館に行きたくなった。新博物館ができて行事があるときには、本当に参加したい。
- ・他県の人や外国の人も来て、三重の誇りとなるような博物館、遠くの人も参加できる博物館を希望。
- ・食べ物の文化圏についての調査をしてみたい。
- ・魚などの生き物が展示されている博物館にしてほしい。
- ・博物館の資料を身近に感じられるようにしてもらいたい。

3 みんなでつくる博物館会議（分科会）

「みんなでつくる博物館会議（分科会）」は、テーマ別の検討の場として、意見交換やアンケート調査を行いました。今年度は、わかりやすく魅力的な展示（＝展示検討ワークショップ）、ユニバーサルデザイン（UD）、県民・利用者の参加・参画（＝三重県立博物館サポートスタッフ交流会）をテーマに、みんなでつくる博物館会議の分科会を開きました。

(1) 展示検討ワークショップ ～県博の移動展示を題材に～

移動展示（松阪会場・桑名会場）を題材に、観覧者とともに、わかりやすく、魅力的な展示について考えるためのワークショップを開催しました。

（第1回 松阪会場）

日時：平成22年8月8日(日)

会場：松阪市文化財センター（はにわ館） 第1ギャラリー

検討会には8名の方に参加いただき、それぞれの方に多くの意見を伺うことができました。

同日実施したアンケートは、大人16名、子ども10名の方に回答いただき、主に次の意見をいただきました。

○新県立博物館に対するご意見

- ・歴史と自然の展示が別々になった「総合」博物館にはなってほしくない。
- ・動きのある展示、五感にうったえるものができることを期待。
- ・また来たいと思うもの、何度行っても発見のあるものを期待。
- ・たえず工夫し、資料の保存の予算もしっかり取ってほしい。

○移動展示に対するご意見

- ・自然科学だけでなく、文化、歴史、生活など関わりを大事にした展示を望む。
- ・自然も人文の分野も、多様であってほしい。
- ・写真の大きさを統一してほしい。
- ・字が多く、家族連れをターゲットにするには、表現もふくめ工夫が必要。
- ・もっと気軽に見られるようにし、説明員と質問コーナーが欲しい。
- ・雰囲気は美術館のようで、子ども連れには厳しい。
- ・机の角が尖っていて、小さい子にはあぶない。

(第2回 桑名会場)

日時：平成23年1月30日（日）

会場：ふるさと多度文学館 展示室・視聴覚室

解説ツアーには64名、その後の展示検討ワークショップには28名の方に参加していただき、多くのご意見を伺いました。また、同日実施したワークシートは、大人17名、子ども7名の方に回答をいただきました。ワークショップおよびワークシートでは、主に次のご意見をいただきました。

○移動展示に対するご意見

- ・生活の道具は、体験を通してこそ先人の知恵を知ることができるので、一つでも多くの体験をできるようにしてほしい。
- ・どの道具が体験できるのか、わかりにくかった。
- ・道具を使っている写真が少なく、興味が持てなかった。
- ・三重県の民具の特色や、県内の地域性、民具の生産や流通について調べてみたいと思った。
- ・小学校の子どもたちが昔の道具について体験学習をしてまとめたパネルは、子どもの視点からの感想と表現がなされていて大人が楽しめた。
- ・子どもが楽しめる展示方法の工夫が必要。展示内容をわかりやすく、楽しく伝えることができる子ども向けの説明パネルがあったらよかった。
- ・和菓子の木型の横に実際のお菓子を並べるなど、子どもが見たときに、説明と実際に道具を使っている場面とが理解できる展示を希望。行灯なども火が入っていないと実感がわからない。

○解説ツアーの解説に対するご意見

- ・大きな声でわかりやすかったが、質問ができるともっとよかった。
- ・参加者の経験談を聞く時間もとれるとよかった。
- ・解説が大人向けの内容が中心だったので、子どもに向けた民具について

- の話もあった方がよい。
- ・ 道具を囲んで世代を越えた話ができるよかった。

(2) ユニバーサルデザイン (UD)

「三重県障害者社会参加推進協議会」及び「ユニバーサルデザインアドバイザー団体」との意見交換を実施しました。

○意見交換会

1) 三重県障害者社会参加推進協議会との意見交換会

当事者団体など14団体の参加を得て、さまざまな障がい者の視点からの意見を聞くことができました。

2) ユニバーサルデザインアドバイザー団体との意見交換会

UDの視点から地域において活動をされている7団体の皆さんに、多様なご意見、提案をいただき、意見交換を行いました。

会議名	開催日	参加単体数
三重県障害者社会参加推進協議会	9/10	14 団体
ユニバーサルデザインアドバイザー団体	9/14	7 団体

これらの意見交換により、施設づくりや活動・運営へ多様な示唆を得ることができ、展示設計に反映するとともに、今後も意見交換の機会を設けることとしています。

(3) 三重県立博物館サポートスタッフ交流会

サポートスタッフ活動は、博物館活動に興味を持って集まった方々が、博物館を核として、ともに考え、活動し、成長する場として互いに支え高めあい、さらには地域における活動へとつなげていくとともに、次世代の育成に資することを目標としています。

今年度の交流会では、新県立博物館への県民参画の核として期待されるサポートスタッフの活動の今後のあり方を考えるため、県民の皆さんがより主体的に博物館を活用していく手法や手順について、滋賀県立琵琶湖博物館の「はしかけ」の方々に講演していただきました。その上で、新県立博物館に向けて、県民とともに成長する博物館を実現するきっかけとなるよう意見交換を行いました。

(実施概要)

日時：平成 22 年 11 月 20 日(土)

会場：三重県総合文化センター 生涯学習棟 4 階 大研修室

講演会：「利用者視点からみた博物館との協創と自己実現」

滋賀県立琵琶湖博物館「はしかけ・びわたん」北村美香さん

滋賀県立琵琶湖博物館「はしかけ・うおの会」鈴木規慈さん

(意見交換の主な内容)

- ・受付の方が、笑顔で迎えてくれるような心配りを願います。
- ・テーマ等、何を伝えたいのかははっきりさせれば、サポスタとして協力する方もやすい。
- ・成長する博物館というのは、良いことだが、すごく難しいことだと思う。
- ・新県立博物館の工事現場で地層が露出しており、化石採集を行う機会がほしい。
- ・江戸期の古文書関係の調査を新県立博物館でもやりたい。
- ・予算はどうしているのか？（はしかけの方への質問）
- 少額の助成金を獲得し、高額なものについては博物館学芸員と共同で互恵関係を持って、助成金に応募する。
- ・サポスタ全体が参加し、みんなで一緒に仲良く活動できるアドバイスは？（はしかけの方への質問）
- コアメンバーが固まってくるので、2 年くらいでコアメンバーを入れ替えるためのルール作りが必要
- 経験の浅い方でもできる仕事、居場所を用意できると良い。

第3章 2011（平成23）年度に向けて

1 2010（平成22）年度の成果と課題

平成22年度は、事業実施方針に基づき、

(1) 県民・利用者の皆さんとともに進める協創による取組 及び、

(2) 新県立博物館を構築するための基本的な取組

について、Vol.1の第3章の3に示した内容にそって取組を進めました。

(1) 県民・利用者の皆さんとともに進める協創による取組

(取組状況と今後の課題)

① 取組テーマ1 参画のしくみづくり

「みんなでつくる博物館会議」、「こども会議」などを試行的に実施し、微修正しながら、開館後のかたちをつくりつつあります。ほかにも、試行的な取組を進めながら、みんなでつくる展示や調査研究、ワークショップなど博物館活動への多様な参加のかたちを試行しつつあります。今後は、どれだけ参加のかたちを広げ、博物館への多様な入口を用意できるかが課題です。

② 取組テーマ2 連携が進む環境づくり

県内博物館、三重大学、まちかど博物館、地域の団体、学校などを対象として、それぞれ可能なことから取組を進め、連携の経験を積み重ねています。今後は、試行的な取組を引き続き進めながら、連携の経験をもとに、連携して何ができるのか、必要なしくみなどについて具体的に構築することが必要です。

③ 取組テーマ3 評価のしくみづくり

事業実施方針の段階では、評価のしくみが重要であり、その構築を特に取組テーマとして重点的に行うこととしていました。しかし、運営方針の検討のなかで、評価のしくみを含め、新県立博物館の基盤となる「博物館マネジメント」のしくみとして整備することが必要で、その重要な一部を担うのが「評価のしくみ」であることが明確になりました。あわせて、博物館の評価には、運営全体の評価と、調査研究など個別評価とがあることも整理し、今後は、先進事例などを参考に、試行も取り入れつつ、県民・利用者の皆さんと具体的な構築に向けた取組を進める必要があります。

④ 取組テーマ4 魅力的な博物館づくり

設計段階から障がい者団体やユニバーサルデザイン団体などと意見交換を行い、施設面での反映に取り組みました。今後は、サービスや運営などソフト面、人的な側面から誰にでも快適な博物館づくりを進める必要があります。このテーマの取組は、多様な県民・利用者の皆さんの声をしっかりと聞いて柔軟に対応していくことが必要です。開館後も日常的に利用者の声やニーズを反映していくためのしくみを検討することが必要です。

(2) 新県立博物館を構築するための基本的な取組

① 取組状況

Vol.1 では、事業実施方針のスケジュールに基づき、活動と運営の全般にわたって、活動や運営を構築するための試行等と、これらの結果を踏まえた諸方針の検討を予定していました。

これまでのところ、「開館に向けた調査研究の実施」、「公文書館機能の体制整備のための検討」、「情報システム整備に向けた基本的な考え方の検討」、「学習プログラム整備のための試行的取組」などについては、予定どおり取組が進んでいます。

一方、平成23年度以降においては、これらの試行的取組等の成果と課題をもとに、調査研究や展示、学習プログラムなど博物館活動に関する諸方針や具体的な展開方向について検討していくことが必要です。

② 今後の課題

活動や運営に関する諸方針は互いに関連しあうものであり、開館にあたって必要となる活動と運営に関する諸方針については、「新県立博物館の活動と運営の方針（仮称）」として一体的にとりまとめることとしました。

今後、運営方針の内容やこれまでの試行的な取組成果をもとに、調査研究等の各活動方針について計画的に検討を進めていきたいと考えています。

検討にあたっては、活動どうし、活動と運営は互いに関連しあっていることから、互いの検討内容を確認しながら進めることが重要です。

2 2011（平成23）年度の位置づけ

2010（平成22）年度の取組状況と課題を踏まえて、2011（平成23）年度は、建築及び展示設計が完成し、工事に入る段階であり、本格的に博物館の活動と運営を構築する年となります。

また、広報についても、開館を見据え、開館時の集客につながるよう戦略的、計画的に進める最初の年となります。このため、これまでよりも広範囲に広報活動を広げていくことも期待されることから、しっかりとした計画と体制づくりを行う必要があります。

また、展示に使用する標本などの資料の確保や製作、調査研究についても、着実に進めていく必要があります。

3 2011（平成23）年度の取組のポイント

2011（平成23）年度は、これまで進めてきた取組を引き続き進めながら、これらの取組をより具体的な環境やしくみの整備につなげていくことが必要で、特に、次の点を重点的に進めていきます。

(1) 博物館活動の構築

新県立博物館の活動（調査研究、収集保存、活用発信）について、県民・

利用者の皆さんとともに、試行的な取組を実施しながら検討を進め、「新県立博物館の活動と運営の方針（仮称）」に位置づけた各活動方針の内容を検討します。

(2) 運営の構築

平成 22 年度の検討案をもとに、県民の皆さんとともに項目ごとに詳細な検討を進めます。

(3) 開館に向けた広報戦略の立案と展開

開館に向けた広報戦略のもとで時期設定などに基づく本格的な広聴広報事業を開始します。

一方、引き続き、認知度の向上や意見集約を目的とした県民の皆さんへのアンケート調査や印刷物配布などの広報活動についても行い、博物館づくりに生かしていきます。

これまでも県民・利用者の皆さんとともにさまざまな試行事業を実施してきましたが、新県立博物館づくりに具体的に関わっているという実感をより多くの人にもってもらえるような参画型の事業を検討します。

(4) 情報システムの検討

平成 22 年度に検討を行った博物館活動や運営の内容を前提にした情報システムの基本的な考え方にに基づき、近年の技術動向、先進事例等をヒアリングしつつ、次年度からのシステム構築に向けて仕様内容の検討を行います。

(5) 「みえの文化交流ゾーン」の検討

新県立博物館を整備することにより、県総合文化センター周辺地域を三重の自然と歴史・文化に関する情報発信及び地域支援機能をもった「みえの文化交流ゾーン」として展開していくため、県民、利用者の視点で検討し、取組を進めます。